

水と人々の関わり

日本語パートナーズ タイ5期 河合幸子

埼玉県を流れる利根川のように、タイではチャオプラヤー川がゆったりと流れています。そして観光名所の王宮やワットプラケオ、ワットアルンはチャオプラヤー川沿いにあり、川はこの国の歴史と文化や伝統の源になっている気がします。

昔、バンコクはチャオプラヤー川からの運河が張り巡らされ、人々の生活に使われていました。バンコクは近代化が進み運河は埋め立てられ、道路に変わりました。現在バンコクで船が運行されている運河はセンセーブ運河だけです。船（水上バス）を使えば、自動車の渋滞を尻目に迅速に移動できます。船の車掌さんは走っている船のへりを歩き運賃の請求に来ます。船はゆっくり走っていると思えば、急にスピードを上げ、水しぶきがかかりそうになると乗客は自分でビニルの水しぶき除けを上げます。船からは運河沿いに暮らす人々の生活の様子を見ることができます。ちょっとしたミニ旅行です。



チャオプラヤー川



センセーブ運河

バンコク郊外には、人々が運河を使って生活していた時の様子を彷彿とさせる幾つかの水上市場があります。私の住んでいるサムットプラカーンのバンプリーヤイにも160年ほど続く百年市場と言われている水上市場があり、週末は多くの人で賑わっています。水上市場の先にはワットバンプリーヤイナイというお寺があります。人々の信仰は厚いので、タンブンのため寺を訪れる人々を目当てに水上市場が発達したとも考えられます。タンブンとは徳を積むことです。寺に寄進したり、鳥や魚を逃がしたりします。

すぐ近くの川沿いにはもう一つのお寺、ワットバンプリヤイカーン（大きな涅槃像ねはんぞうで有名）があります。私の行っている学校はこの2つのワット（寺）の間にあります。

2つの寺を結ぶ川では一年に1回、10月の満月の日にヨーンプアという祭りが催されます。ちょうど日本のお月見の日にあたります。ヨーンプアは船に乗せられた仏様が川で運ばれる中、両岸で待つ人々が船の仏様に向かってハスの花を投げ入れる祭りです。仏様の乗った船は遠く、ハスの花を船に投げ入れるのは容易ではありません。一年に一度のことなので投げ入れられたらご利益があることでしょう。私は8本のハスの花を投げ入れ1本だけやっと届きました。この祭りに参加するには予行演習が必要です。



ヨーンプア祭り

去年の年末と今年の元旦にワットバンプリヤイナイに行ってみました。お坊さんの読経が続く中、白服の参拝の人々が手を合わせ年越しを迎えます。元旦にはお坊さんの読経を聞き、供物とお金をタンブンした後、小さなツボに入った水を植物の根にかけます。学校でも月曜日にはワットからお坊さんが来てタンブンし、読経を聞いた後、木の根元に水をかけている先生の姿を見かけます。聞いたところ水を植物の根にかけるのは、先祖や亡くなった人と繋がり、供養になるそうです。生徒たちにもタンブンするための袋が回されます。

チャオプラヤー川沿いワットアルン（暁の寺）に行った時は、お坊さんにより聖水を頭にかけて手首にヒモを結んでくれました。結婚式ではロツナム（聖水の儀式）が行われます。貝に水や香水を入れた聖水を、新郎、新婦の腕にかけ、結びつきを強くするという願いを込めます。日本で行われる三々九度のようなものでしょう。水（川）はどこまでも流れるので永遠という意味合いがあるからです。

川や水はタイの文化の中心をなすものです。



ワットでの清めの水かけ



タンブン



植物の根に水かけ



結婚式での水かけ